

お口の健康

第35回

骨粗鬆症と歯科治療（前編）



湯沢市・雄勝郡
歯科医師会

ホームページ：
<http://www.yutopia.or.jp/~yoda/>

骨粗鬆症とは、骨の量が減って骨がもろくなる女性や高齢者に多い病気です。高齢者が転倒して骨折したりすると寝たきりや要介護者へと発展しやすいため、その予防に薬を使用されている方も増えています。骨粗鬆症の代表的治療薬の『ビスフォスフォネート製剤』（BP製剤）は骨粗鬆症の治療に非常に有効なため多くの方に使用されています。

BP製剤を使用されている方に、歯科治療で根の治療や抜歯などの外科処置を行なった時、発生頻度は低いのですが、副作用として難治性の顎骨壊死（顎の骨が腐る）を起こすことがあります。BP製剤の使用下で、なぜ顎骨壊死が起こるのか、今のところ原因は判っていません。この顎骨壊死の発生頻度は低いのですが、一旦発生すると非常に治りにくく、回復は極めて困難です。そのため、BP製剤を使用されている方の歯科治療が現在問題になっています。

では、BP製剤による治療を受けている場合は、歯科治療を受けない方が良いのでしょうか？いいえ、副作用は、根の治療や抜歯などの外科的な処置後に発生し、歯石の除去やブラッシング、虫歯の充填治療などには影響が見られ

ないそうです。

骨粗鬆症の治療で注射をされている方や、BP製剤である『ダイドロネル』『フォサマック』『ボナロン』『アクトネル』『ベネット』などを服用されている方は、歯科治療の際には歯科医師にその旨申し出てください。また、もしBP製剤による治療を始めることになっても、定期検診を受けてお口の状態を健康に保つことが大切です。お口のケアができていると、副作用が発生しても重くならないと報告されています。歯科医院で定期的なチェックとプロによるケアを受けて、お口の状態をいつも清潔にしておきましょう。



骨粗鬆症で注射や投薬を受けている方は、歯科治療の際にその旨申し出てください